

(1) 工事名称	笹山小学校屋内体育館改築工事
(2) 建築場所	新潟県新潟市北区笹山地下
(3) 用途	小学校（屋内体育館・渡り廊下）
(4) 規模	地下 一階・地上 1 階・塔屋 一階 建築面積 約 969.44 m ² 延面積 約 937.43 m ² 増築予定 有・ 増
(5) 主要構造	鉄骨造

(1) 地震力
標準せん断力係数 $C_0 = 0.2$ (一次設計時)、 $C_0 = 1.0$ (保有耐力チェック時)
地震地域係数 $Z = 0.9$
局部密度 $K = \underline{\hspace{1cm}}$
重要度係数 $I = 1.25$ (渡り廊下 $I = 1.00$)

(2) 風圧力
速度圧 $q = 0.6 \text{ EVo}^2$ 基準風速 $\text{Vo} = 30\text{m/s}$
地表面粗度区分による、**Ⅲ**
風力係数 告示 平 12 建告第 1454 号 第 3 による

垂直最深積雪量	120	cm	
1cm 当りの単位重量	30.0	N/m ² ・cm	
長期	120×30.0×0.70 = 2.52		kN/m ²
短期組合せ	120×30.0×0.35 = 1.26		kN/m ²

土の単位体積重量	18 kN/m ²	地下水位	■
地表面の等分布荷重			

室の種類	床	小 座	大座・柱	地震力	室の種類	床	小 座	大座・柱	地震力
アリーナ	3500	3500	3200	2100	渡り廊下	2300	2300	2100	1100
点検用通路	3500	3500	3200	2100					
更衣室、便所	2300	2300	2100	1100					
用具庫	3500	3500	3200	2100					

名 称	附	重 量	名 称	附	重 量

使用箇所	種 類	設計基準強度 F _c (N/mm ²)	所要スラブ (cm)	備 考
基礎・基礎梁	普通	※ 21.0	15	△F=3N
建物躯体	普通	※ 21.0	18	△F=3N
捨コンクリート	普通	18.0	15	

(2) コンクリートブロック (CB)

種類	厚さ	使用箇所	備 考

	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	SD345	D19以上	柱・梁主筋	ガス圧接継手
異形鉄筋	SD295A	D16以下	スラブ他	重ね継手

(1) 構造図に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成19年版」（以下「標仕」という）による

記号	●	×	∅	●	○	※	◎
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29

(1) 地盤改良
工法

(2) 直接基礎

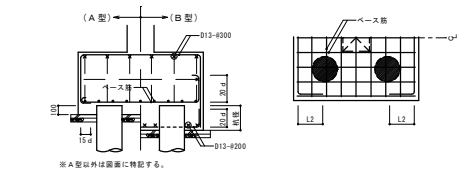
根切底 1.0 m

地盤の許容応力度(長期) 50 kN/m^2

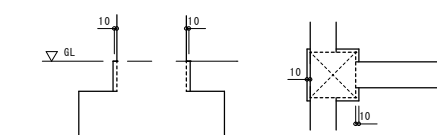
平板載荷試験 有・無(位置は別途指示)

工法	回転圧入工法
材料・種別	先端羽根付き鋼管杭 7.0m
杭先端	設計GL - 2m 以深
周辺固定液	有・ 無 （使用範囲）
杭径	190.7φ、216.3φ、267.4φ
杭の許容支持力（長期）(kN/本)	267、338、445

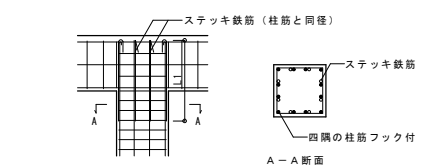
(1) 杭基礎



a: 土に接する柱周囲の増打ちは下図による



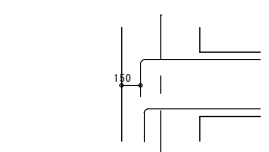
b: 柱頭で梁内に定着 (L2) がとれない場合の補強は下図による



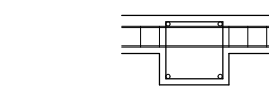
c: 柱増打ち部分に壁、梁、床版等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない

d: 柱増打ち部の記載なき軸方向補強筋の定着長さは $20d$ 以上とする

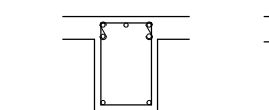
a : 大梁主筋の逃げ寸法の標準値は下図による



b: 柱面と梁面が同一面の場合、柱主筋径分だけ STP 幅を狭めて
下図のように加工する



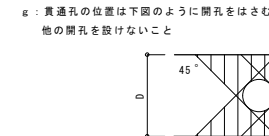
○：梁主筋 2 段配筋では、2 段目の鉄筋も主筋として所定の位置に下図のように正しく配筋する



d : 梁増打ち部分に床、壁、梁等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない

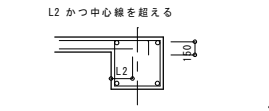
とすると

f: 梁貫通孔の補強に、建設技術評価規定に基づく評価または日本建築センターの評価を受けた製品を監督員の承諾により使用してもよい。使用にあたってはあらかじめ設計担当課と打ち合わせを行うこと。また、孔径が250mmを超える場合、孔の上下にあばら筋と同径・同ピッチの補強筋を入れること

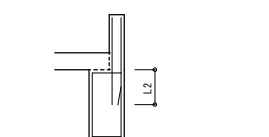


a: 壁筋の柱・梁内への定着は下図による

柱への定着



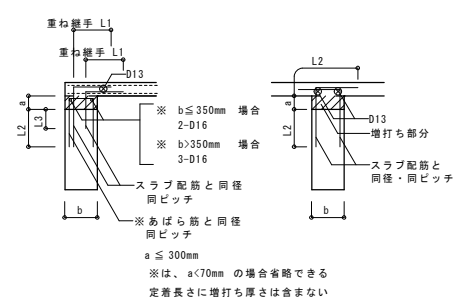
腰壁筋の梁への定着



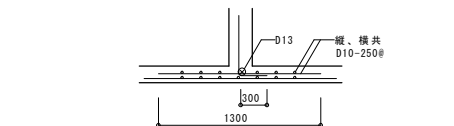
b : 増打ち部分に壁、床版等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない

a: 土間スラブの打継ぎ補強及びスラブ配筋の定着の確保

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで打継ぎを設ける場合、打継ぎ部の補強及びスラブ配筋の定着を確保するための差し筋は下図による。また、梁の増打ち補強も兼ねるものとする。



b : 1階の RC 壁下に基礎小梁がない場合、土間コンクリートに
 下図の補強を行う



補強筋
壁
床版
あばら補強筋
柱
D10
a
h
D
D10
a

補強筋は、梁主筋の「段落」を
以上とする。
あばら筋は、梁と同様、同じ
とする。
厚さ10 ピッチは、梁の厚さ
D まで、400の場合は補強筋を
a は100~200 程度。
梁下増打コンクリートの増打
増打コンクリート補強と同様
ハッチ部分は増打コンクリート

新潟市建築設計協同組合

担当設計事務所 太陽設計株式会社

工 事 名	笹山小学校屋内体育館改築工事
-------	----------------

国 名	構造関係仕様 (鉄筋コンクリート)
-----	-------------------

年 月 日	2011.3	缩 尺	No-Scale	图面番号	S-1
-------	--------	-----	----------	------	-----

7. 鉄骨工事
(1) 鉄骨

	種 類	使用箇所	備 考
鋼 材	SM400B	柱、大梁	JIS規格品
	SS400	小梁、その他の型钢	JIS規格品
	SSC400	折座、補助部材	JIS規格品
	SN490C	柱のBPL、ダイヤフラム材	JIS規格品
	SN490B	裏当て金	JIS規格品
	BCR295	昇降口コラム柱	JIS規格品
	STKR400	間柱、耐風梁	JIS規格品

ボルト名	種 類
高力ボルト	S10T、F8T（溶融亜鉛メッキ部分）
普通ボルト	SS400
柱アンカーボルト	SS400、ABR400、ABR490
スタッド溶接用材料	

- (3) その他
現場溶接 有 ・ **無**
- (4) 製作工場
国土交通大臣による認定工場または(社)全国鐵構工業協会による評価工場(グレードM以上)
- (5) 防錆塗装
素地調整 C種
防錆塗装 B種 JIS K 5674-2種 (工場2回塗り)
溶融亜鉛メッキ **有** ・ 無
※コンクリート付着部は不メッキ処理とする。
- (6) 接合部の検査
溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

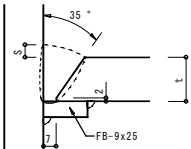
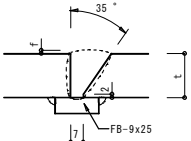
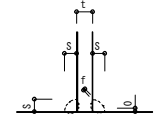
検査箇所	検査方法	検査率又は検査数				備 考
		社 内	第 三 者	工 事 監 理 者		
突合せ溶接部 (完全溶込み 溶接部)	超音波探傷試験	100 %	30 %	%		
	外観(目視)検査	100 %	100 %	%		
第三者検査機関名	C I W 認定業者	個	個	個	個	


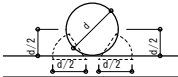
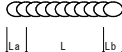
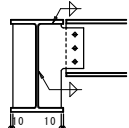
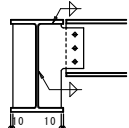
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう

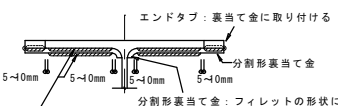
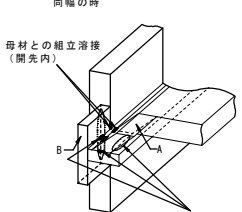
- 注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと
* 印の検査水準は第6水準 A O Q L 4 % とする
- (7) 現場溶接
主要構造部材への現場溶接は、原則として行わないものとする
但し、必要性が生じた場合は標仕 7.6.3 により、適正な溶接工が作業を行うものとする
- (8) 溶融亜鉛めっきを行う場合の修正及び補修
a : 溶融亜鉛めっきにより、許容誤差以上の歪み、ねじれがある場合は、鉄骨精度測定指針(日本建築学会)による許容誤差以内に修正する
b : 運搬中の衝撃、摩擦、ビス止め等による亜鉛めっき部分の損傷箇所及び切断面等の不めっき箇所の補修は標仕表 14.2.4 による

- (9) アンカーボルト等の定着
- ・ フック付きの場合
- ・ ナット付きの場合
- L : 定着長さ
d : アンカーボルトの径
- ・ あと施工アンカーの場合
- da : アンカー筋の呼び名または径
Le : アンカー筋の有効埋込み長さ
Le ≥ da とする

溶接基準図

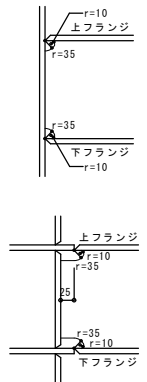
T1	レ形突合わせ	B1	レ形突合わせ	F2	隅肉溶接													
$6 < t \leq 32$		$6 < t \leq 32$		$t \leq 16$														
																		
$\frac{1}{4} t \leq s \leq 10$				<table border="1" data-bbox="1348 379 1527 416"><tr><td>t</td><td>6</td><td>~ 9</td><td>~ 11</td><td>~ 16</td></tr><tr><td>s</td><td>5</td><td>7</td><td>9</td><td>12</td></tr></table>		t	6	~ 9	~ 11	~ 16	s	5	7	9	12			
t	6	~ 9	~ 11	~ 16														
s	5	7	9	12														

FL2	 フレア溶接	スチフナー・G. P. の端部
<div><p>・フレア溶接を行う場合の溶接長さ 鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合は下図による</p><div><div><p>L : 片面フレア溶接の場合 10d : 両面フレア溶接の場合 5d La 及び Lb=1S (鉄筋については 1d) 以上 d : 異形鉄筋の呼び名に用いた数値 S : 溶接のサイズ</p></div></div><p>有効溶接長さ (L) は、ビードの始点 (La) 及びクレーター (Lb) を除いた部分の長さとする</p></div> <td></td>		

裏当て金・エンドタブ要領		共通事項								
<div><div>(裏当て金要領)</div><div><p>エンドタブ: 裏当て金に取り付ける</p><p>5~40mm</p><p>5~40mm</p><p>5~40mm</p><p>5~40mm</p><p>分割形裏当て金</p><p>裏当て金取付け溶接を施す部位</p><p>隅肉溶接 S=4~6mm 1パス</p><p>長さ=40~60mm程度とする</p><ul style="list-style-type: none">・ ロール H.BH で r が大きい場合・ ロール H.BH で r が小さい場合・ 同時 BH の場合</div><div><div>(エンドタブ要領)</div><div><p>母材との組立溶接 (開先内)</p><p>裏当て金との組立溶接</p></div><table border="1" data-bbox="1303 841 1482 917"><tr><td></td><td>36mm 未満</td><td>36mm 以上</td></tr><tr><td>A</td><td>12x38</td><td>12x50</td></tr><tr><td>B</td><td>9x38x70</td><td>9x50x70</td></tr></table><ul style="list-style-type: none">・ エンドタブは裏当て金に取付けることとし母材に直接取付けないこと。・ 鉄筋、仕上げ材に支障がなければタブの切断は行わない。(切断する場合は5mm残して切断する)・ 代替エンドタブの使用については設計担当者の承認を得ること。</div></div> <div><div>(共通事項)</div><div><ol style="list-style-type: none">(1) 鉄骨面に記載なき事項は、建設大臣官庁庁舎同解説(平成10年版)による(2) 本溶接基準図は特記なき場合は、手溶接又はCO₂(3) 溶接材料の強度は母材の強度以上とする(4) 裏当て金の材質は母材と同等以上の材を使用する 鉄隅肉溶接とする(5) 裏当て金のない完全溶込み溶接は裏はつり後、裏(6) エンドタブの材質は母材と同等以上の材とし、形用することを原則とする(7) 余盛りの値 f は次のように定める<ul style="list-style-type: none">・ 突合せ溶接 0.5mm ≤ f・ 隅肉溶接 f ≤ 0.1S+1mm(8) 組立溶接の脚長は 4 mm以上、1 歩り長さは40行わない</div></div>			36mm 未満	36mm 以上	A	12x38	12x50	B	9x38x70	9x50x70
	36mm 未満	36mm 以上								
A	12x38	12x50								
B	9x38x70	9x50x70								

スカラップ要領

《工場溶接》

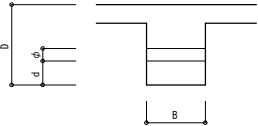


※梁貫通孔の補強は、補仕 による

(1) 梁貫通リスト

H 形配筋					
凡例 斜筋：一面本数一面一径 縦筋：孔の両側の本数一卷一径					
配筋種別	斜筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

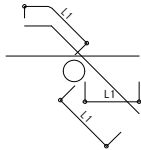
(2) 孔の上下方向の位置は下記による



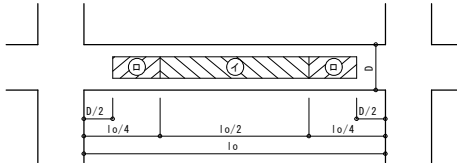
孔の相互の間隔(中心間距離)は孔径の3倍以上とする

D	主筋	
	1段の場合	2段の場合
500 ≦ D<700	d ≧ 175	d ≧ 250
700 ≦ D<900	d ≧ 200	d ≧ 275
900 ≦ D	d ≧ 250	d ≧ 325

(3) 補強筋の定着長さは下図による



(4) 梁貫通孔の可能範囲は下記による



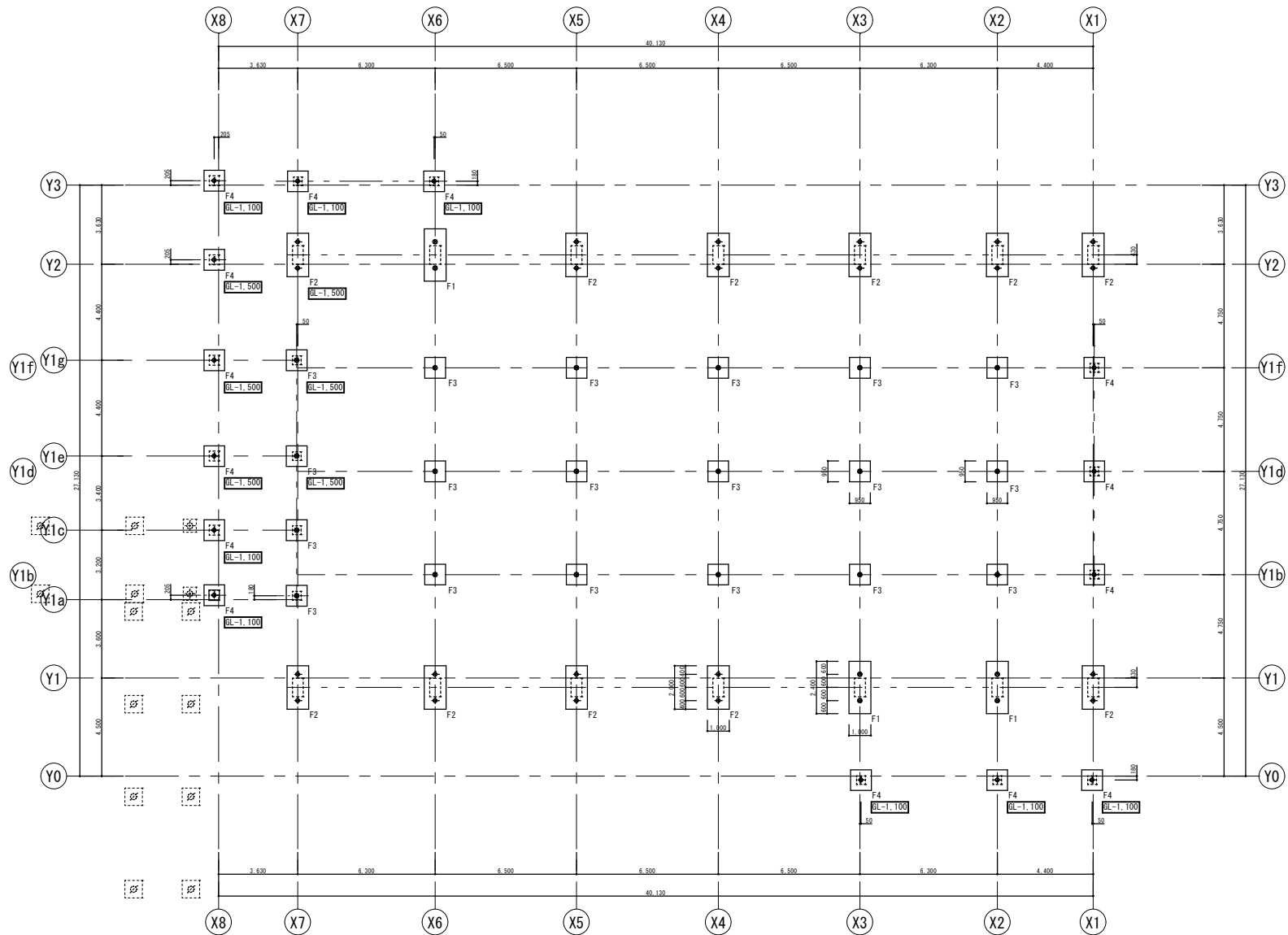
- ① 範囲 $\phi \leq D/3$
② 範囲 $\phi \leq D/4$

その他の部分は原則として認めない

注) 梁成の 1/10 以下、かつ 150 φ未満の場合、
検討をたうえて、補強を省略できる

補強リスト

機	位 置 梁符号	梁サイズ		あばら筋	貫通孔 φ	数量	配筋種別	備考
		B	D					
ア リ ー ナ	X7通Y1-Y1a間 F G 3	300	1,000	□-D13-φ200	125	1	H3	
	X8通Y1e-Y1g間 F G 6	300	1,200	□-D13-φ200	100	1	H2	
					125	1	H3	
	Y3通X7-X8間 F G 5	300	800	□-D13-φ200	150	1	H3	
					125	1	H3	
渡 り 底 下	X8通Y1g-Y2間 F G 6	300	800	□-D13-φ200	125	1	H3	
	2通E-F間 F G 1 0	250	600	□-D13-φ200	200	1	H3	
	2通E-F間 F G 1 0	250	600	□-D13-φ200	200	1	H3	



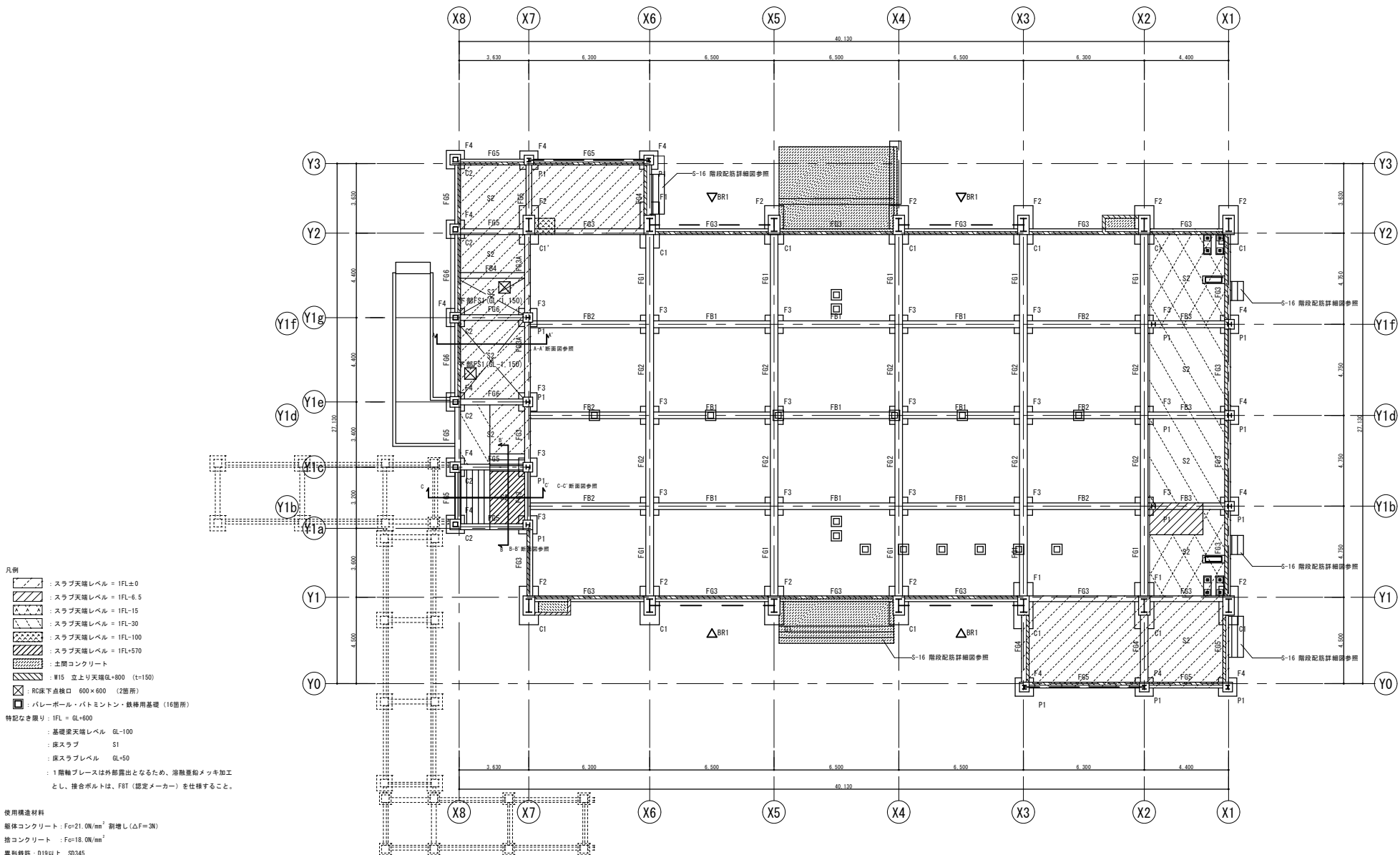
凡例
□ : 基礎下端レベル
特記なき限り : 基礎下端レベルはGL-1,300

※渡り廊下はS-20参照



杭、基礎リスト								
符号	杭径	鋼管厚	鋼管材質	本数	節点数	計	設計支持力 (kN)	杭長 (m)
F1	267.4	9.3	STK490	2	3	6	890以上	7
F2	216.3	8.2	STK490	2	11	22	676以上	7
F3	267.4	9.3	STK490	1	19	19	445以上	7
F4	216.3	8.2	STK490	1	14	14	338以上	7
杭工法		先端羽根付き鋼管杭工法。継手はメーカー使用による。 高止まりを生じさせないこと。 試験杭は杭毎に行い、支持層の確認を行うこと。(試験位置は監理者と協議を行う)						

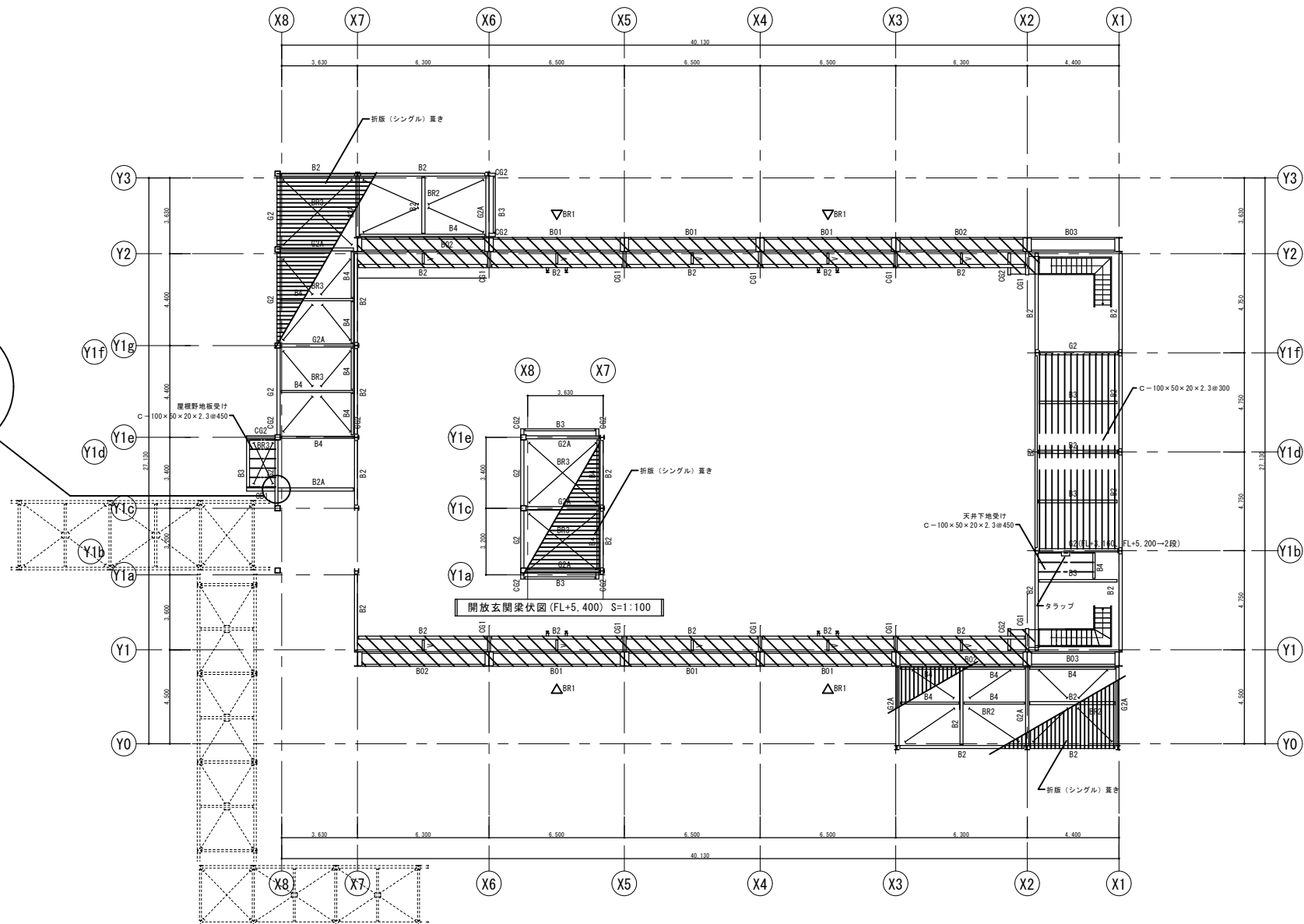
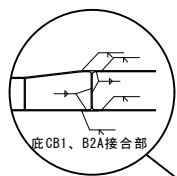
杭伏図 S=1:100



- 凡例
- スラブ天端レベル = 1FL±0
 - スラブ天端レベル = 1FL-6.5
 - スラブ天端レベル = 1FL-15
 - スラブ天端レベル = 1FL-30
 - スラブ天端レベル = 1FL-100
 - スラブ天端レベル = 1FL-570
 - 土間コンクリート
 - W15 立上り天端GL+800 (t=150)
 - RC床下点検口 600×600 (2箇所)
 - バレーボール・バドミントン・鉄棒用基礎 (16箇所)
- 特記なき限り: 1FL = GL+600
- 基礎梁天端レベル GL-100
 - 床スラブ S1
 - 床スラブレベル GL+50
 - 1階軸ブレースは外部露出となるため、溶融亜鉛メッキ加工とし、接合ボルトは、FBT (認定メーカー) を仕様すること。

使用構造材料
躯体コンクリート : Fc=21.0N/mm² 割増し (ΔF=3N)
地コンクリート : Fc=18.0N/mm²
異形鉄筋 : D19以上 SD345
 : D16以下 SD295A
※渡り筋下はS-20参照

基礎伏図 S=1:100

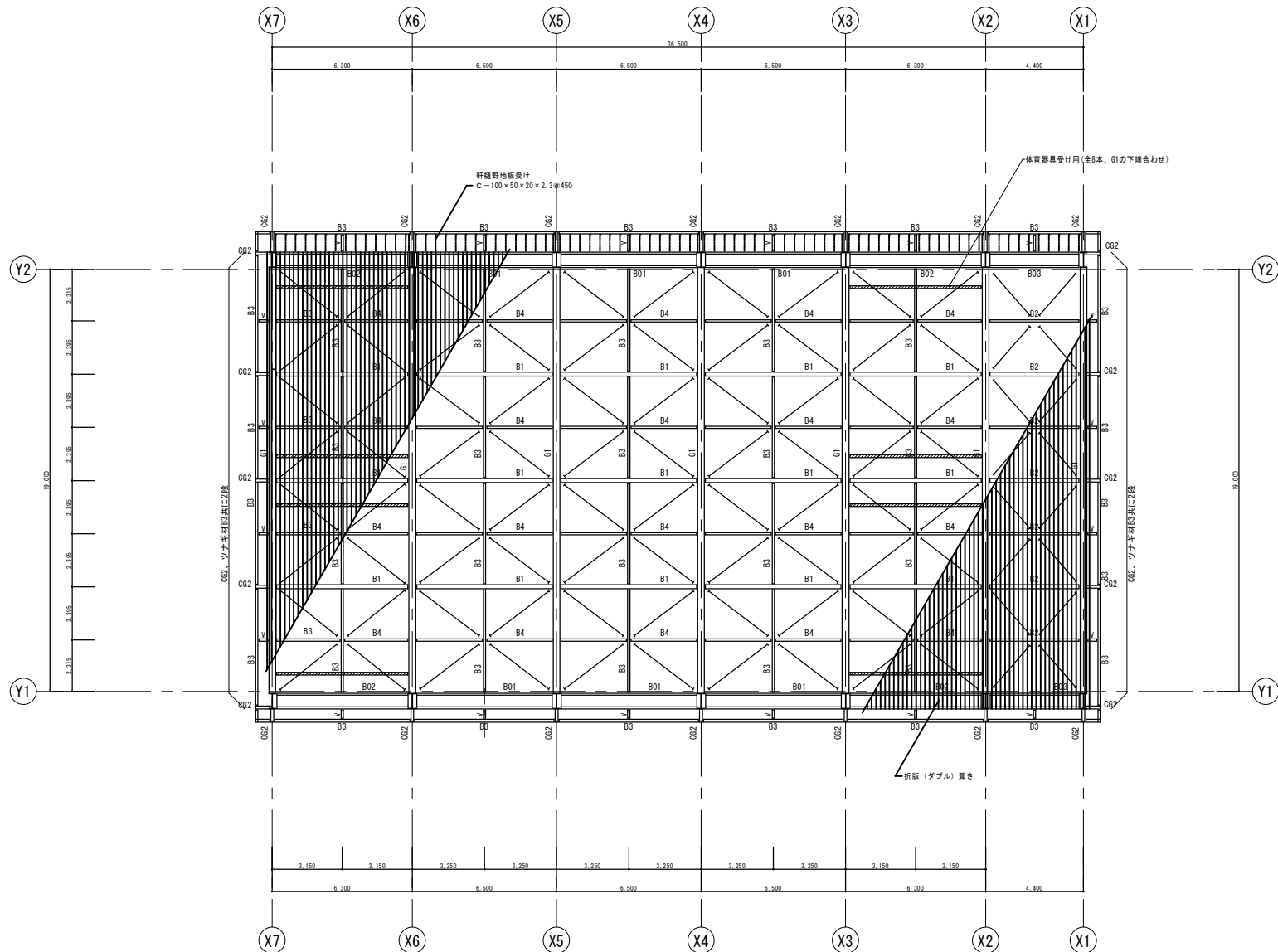


凡例
用真床 (1)、(2) 屋根ブレース: BR2
更衣室、便所、玄関部屋根ブレース: BR3
斜線: 合成スラブ (山上80)

通り廊下はS-21参照



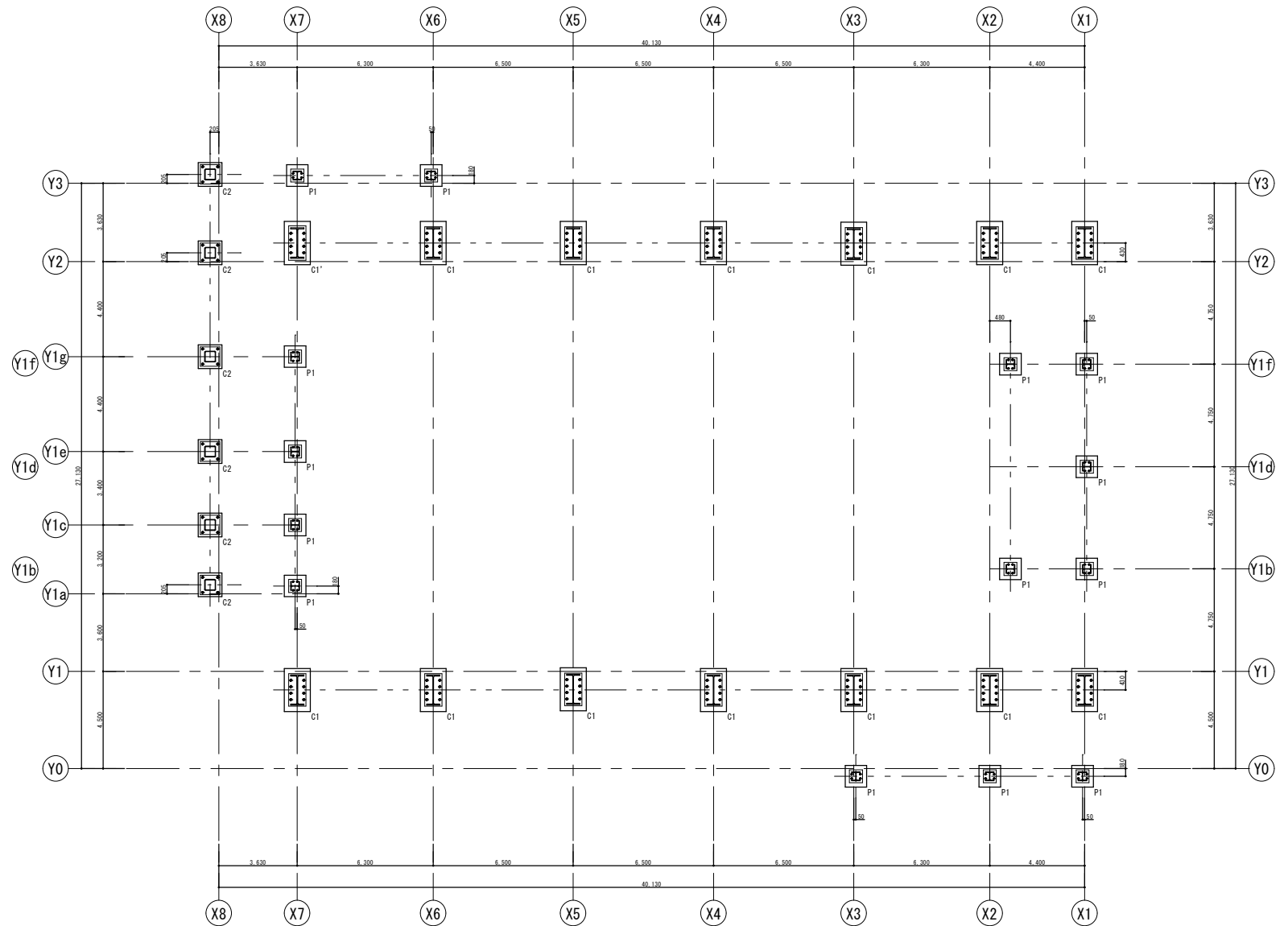
管理階梁伏図 S=1:100



屋根伏図 S=1:100

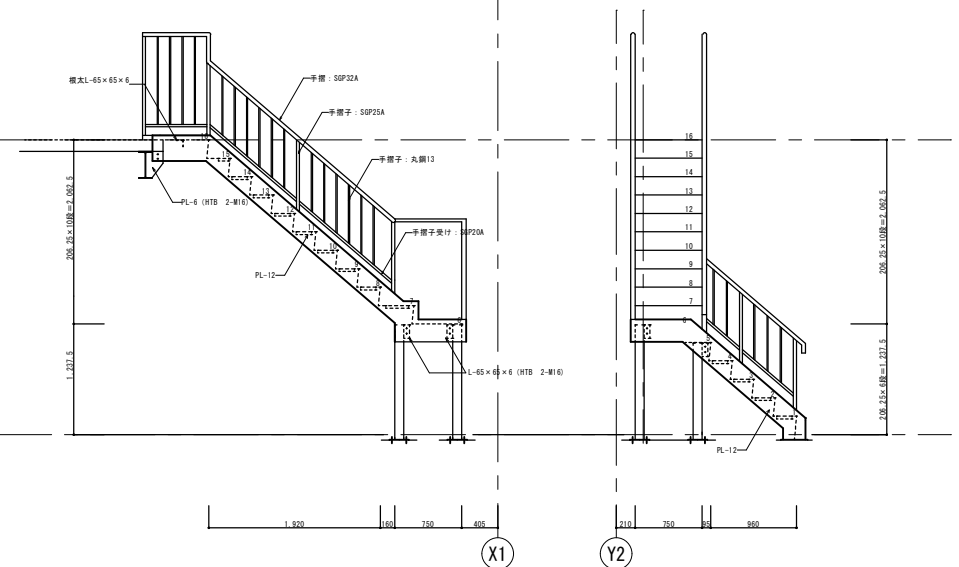
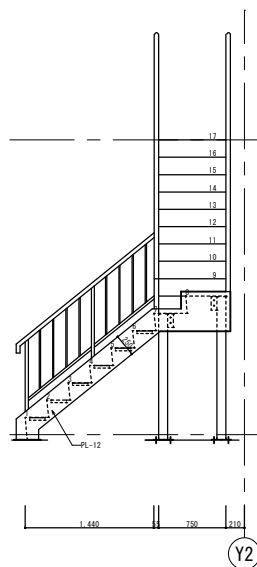
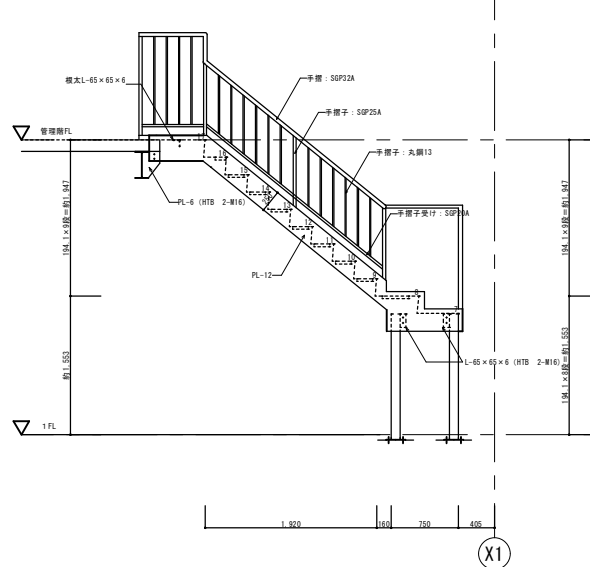
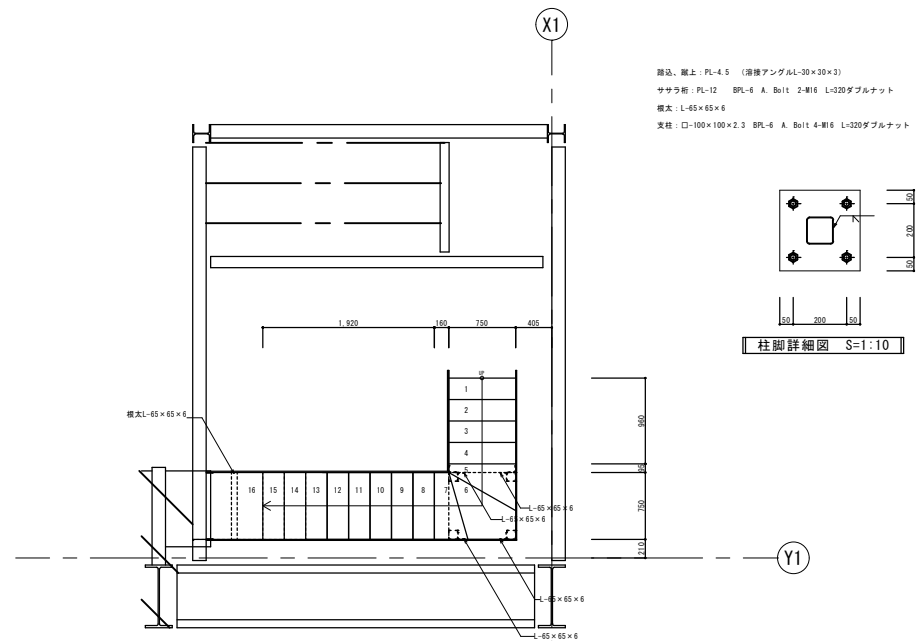
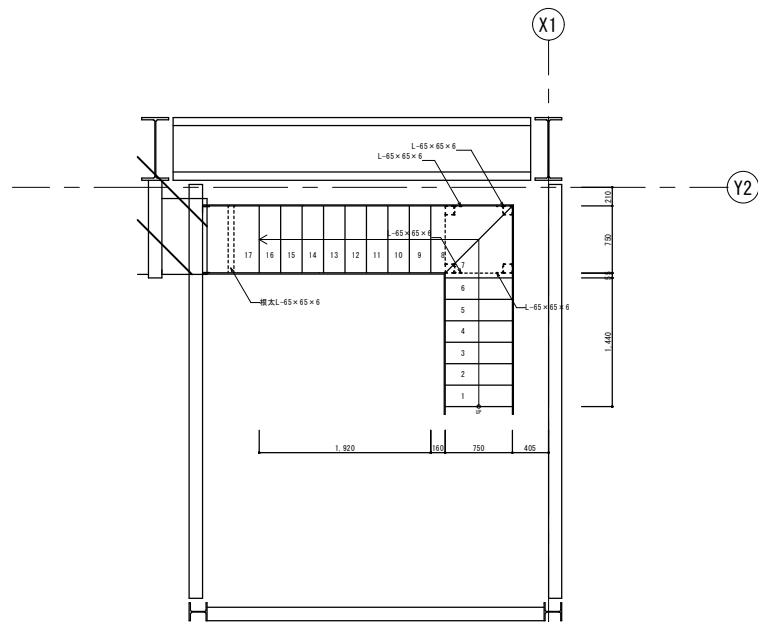
凡例
屋根プレース BR2
吊上げバスケット、防球ネット用小梁 B3

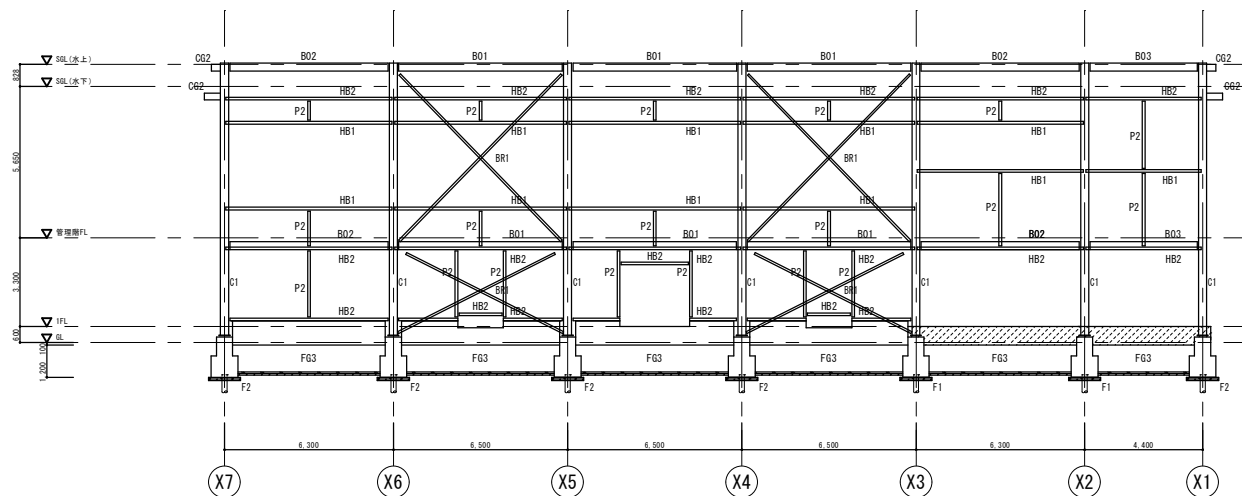




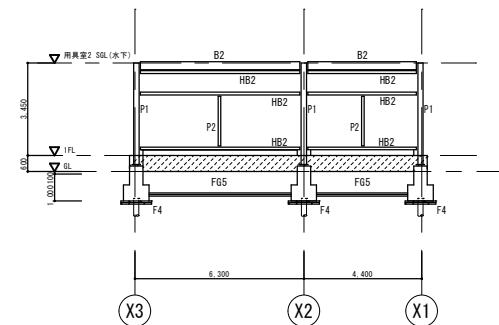
芯関係図 S=1:100、1:50



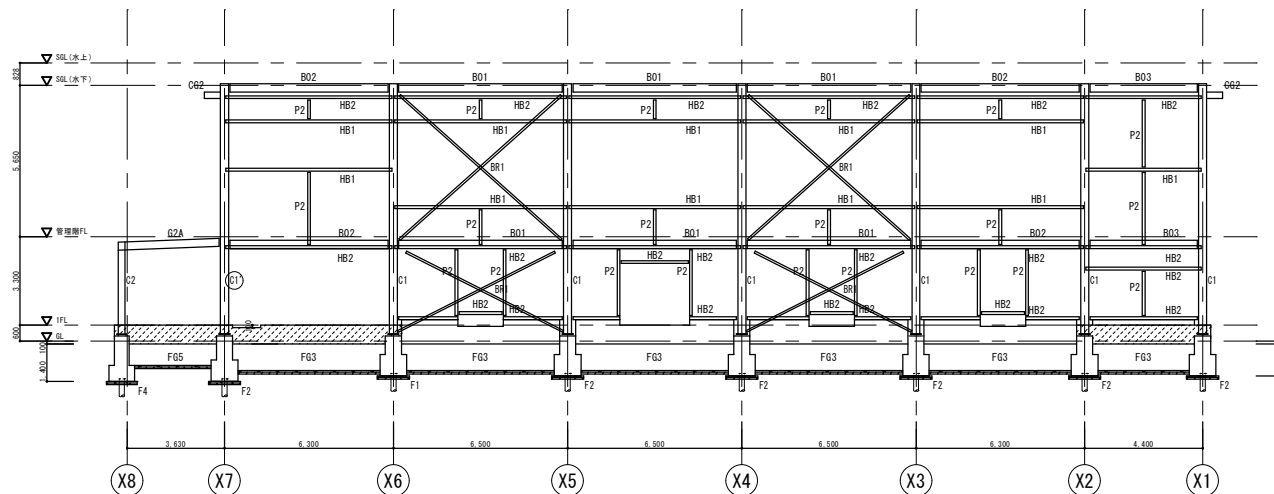




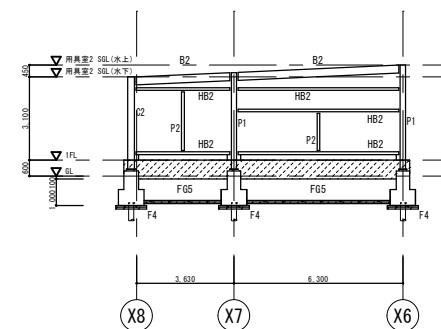
Y 1 通り 軸組図 S=1:100



Y 0 通り 軸組図 S=1:100



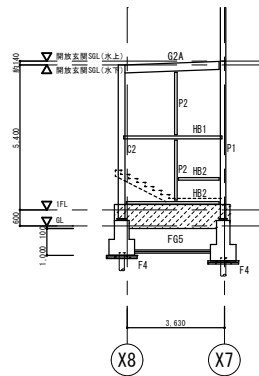
Y 2 通り 軸組図 S=1:100



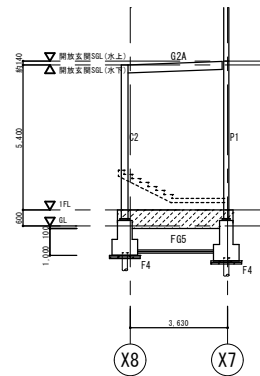
Y 3 通り 軸組図 S=1:100

特記なき限り：1 階横筋 筋 C-100×50×20×2.3@600 (柱面外)
 2 階横筋 筋 C-100×50×20×2.3@600 (柱面内)
 RC壁はW15
 1 階軸ブレースは外部露出となるため、溶融亜鉛メッキ加工
 とし、接合ボルトは、F8T (認定メーカー) を仕様すること。

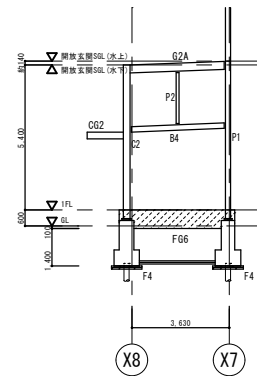
凡例
 : 梁上端フカシを示す



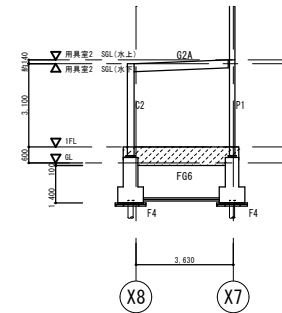
Y 1 a 通り 軸組図 S=1:100



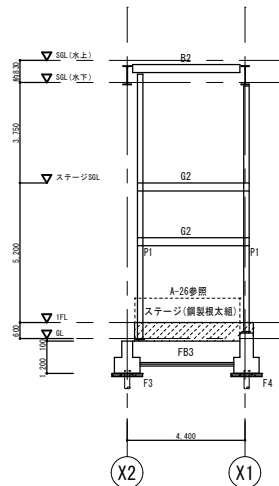
Y 1 c 通り 軸組図 S=1:100



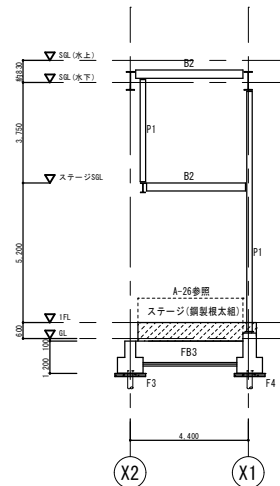
Y 1 e 通り 軸組図 S=1:100



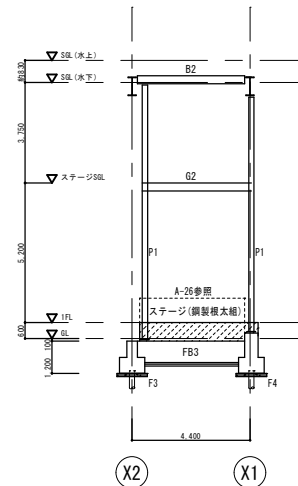
Y 1 g 通り 軸組図 S=1:100



Y 1 b 通り 軸組図 S=1:100



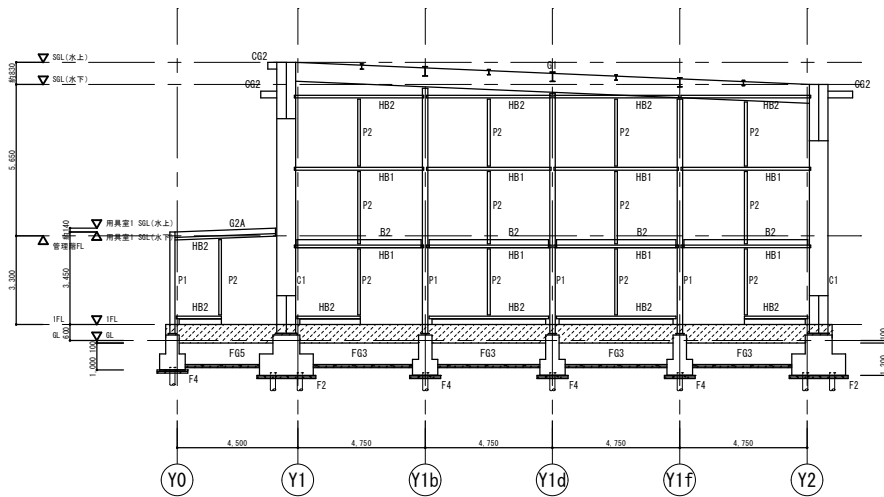
Y 1 d 通り 軸組図 S=1:100



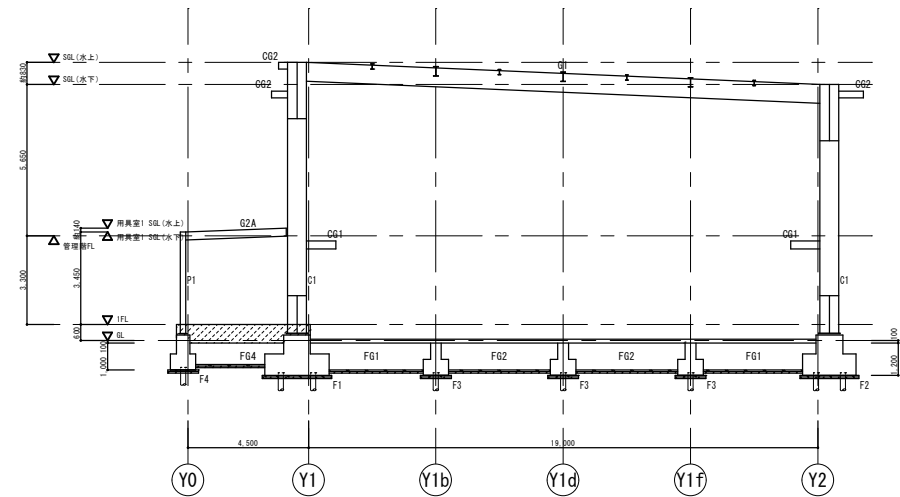
Y 1 f 通り 軸組図 S=1:100

特記なき限り：1 階横鋼筋 C-100×50×20×2.3@600（柱面外）
：2 階横鋼筋 C-100×50×20×2.3@600（柱面内）

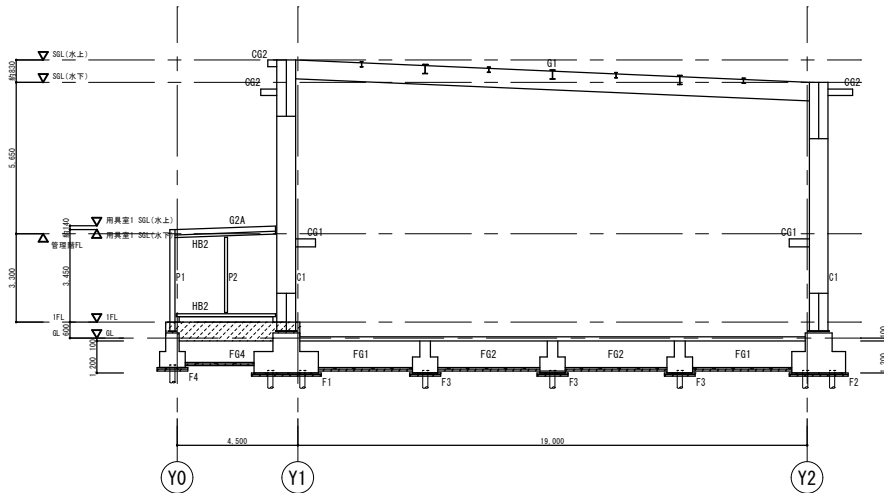
凡例
：梁上端フカシを示す



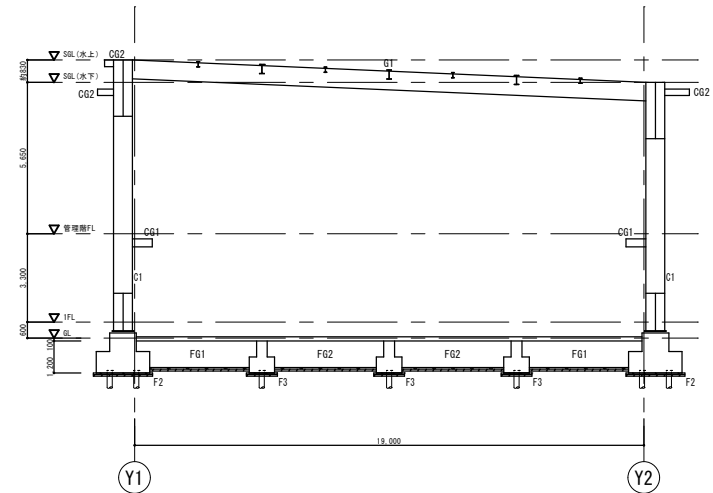
X 1 通り 軸組図 S=1:100



X 2 通り 軸組図 S=1:100



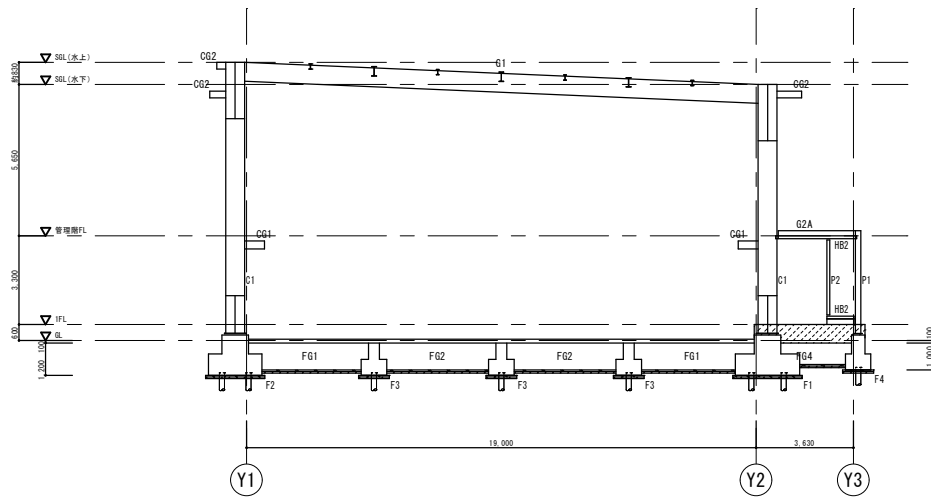
X 3 通り 軸組図 S=1:100



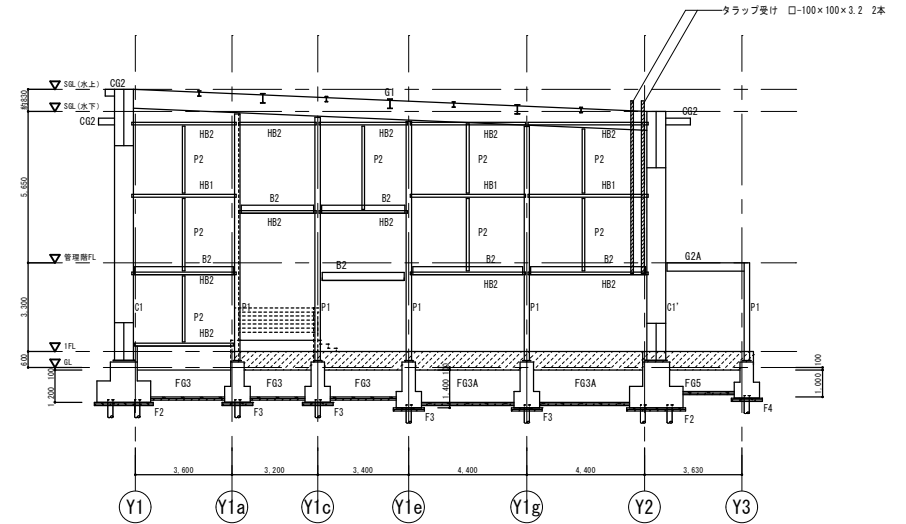
X 4、X 5 通り 軸組図 S=1:100

特記なき限り：1 階横筋 縦 C-100×50×20×2.3@600（柱面外）
：2 階横筋 縦 C-100×50×20×2.3@600（柱面内）

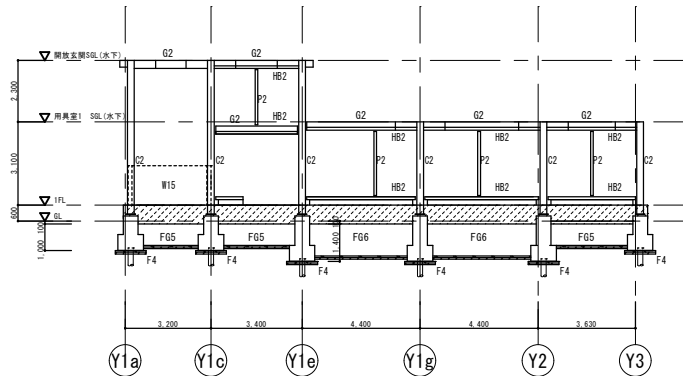
凡例
：梁上端フカシを示す



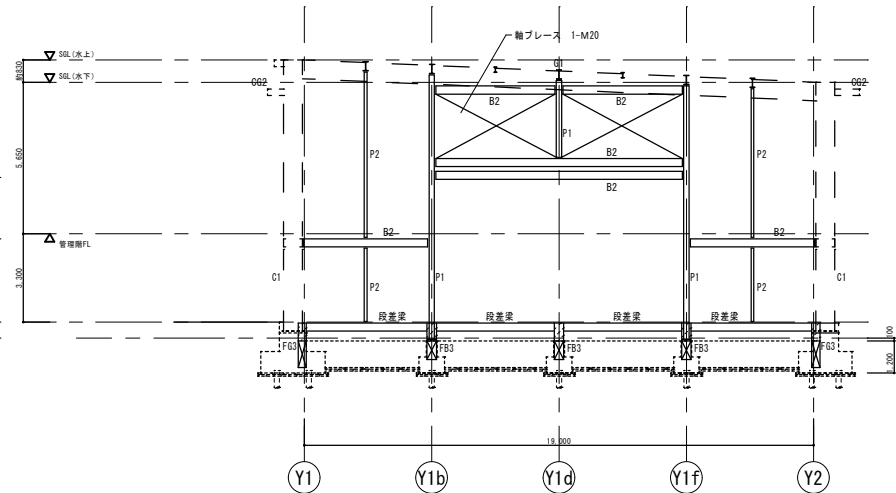
X 6 通り 軸組図 S=1:100



X 7 通り 軸組図 S=1:100



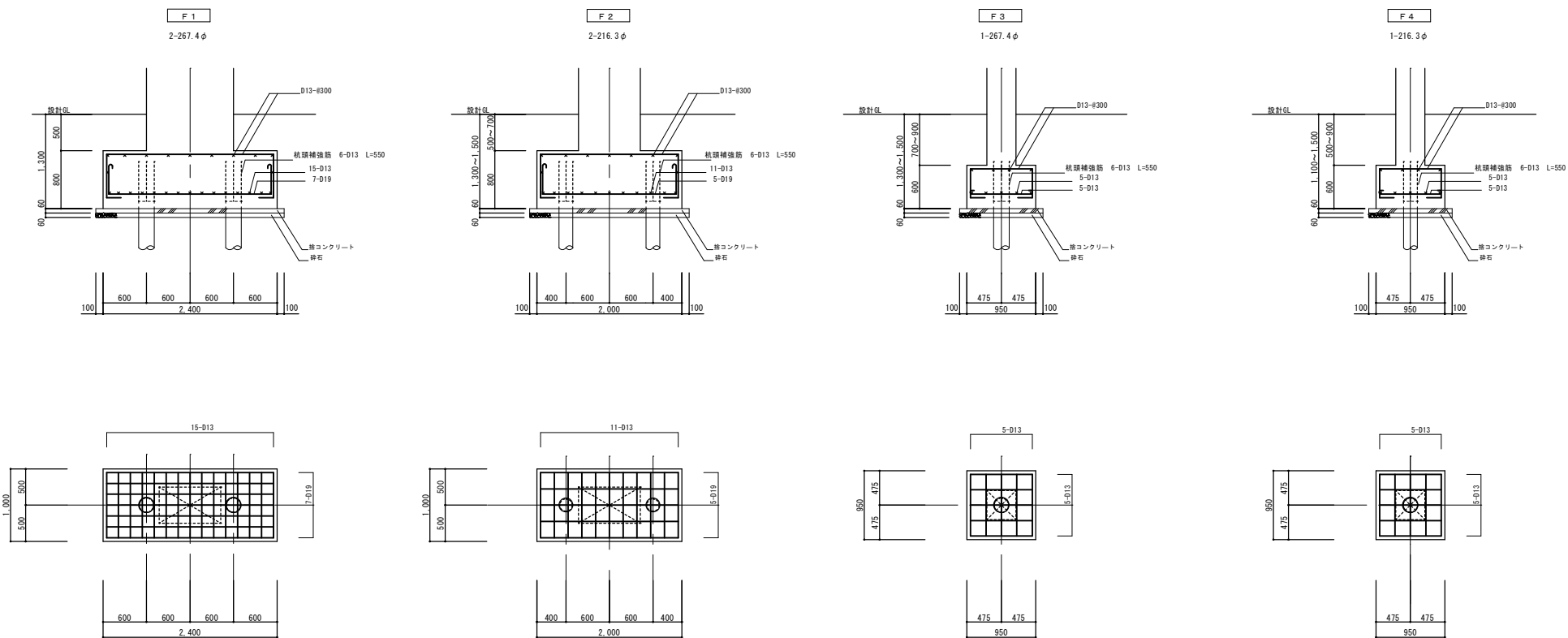
X 8 通り 軸組図 S=1:100



X 2 通り 480 軸組図 S=1:100

特記なき限り：1 階横断線 C-100×50×20×2.3@600（柱面外）
：2 階横断線 C-100×50×20×2.3@600（柱面内）

凡例
：梁上端フカシを示す



杭頭補強筋要領			
杭頭補強筋			
杭頭径	使用鉄筋	定着長 L	溶接長 lo
267.4 φ	6-D13	550	50
216.3 φ	6-D13	550	50

基礎梁リスト S=1:30

共通事項 基礎梁下 均しコンクリート ｾ60、砕石 ｾ60
巾止めの筋はD10-#1,000とする。

符 号	F G 1			F G 2		F G 3	F G 3 A	F G 4	F G 5	F G 6
位 置	Y1, Y2端	中央	Y1b, Y1f端	Y1b, Y1f端	中央、他端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面										
B × D	400 × 1,000			400 × 1,000		300 × 1,000	300 × 1,200	400 × 800	300 × 800	300 × 1200
上端筋	5-D22	3-D22	4-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
STP筋	□-D13#200			□-D13#200		□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200
腹 筋	4-D10			4-D10		4-D10	6-D10	2-D10	2-D10	6-D10

基礎小梁リスト S=1:30

共通事項 基礎梁下 均しコンクリート ｾ60、砕石 ｾ60
巾止めの筋はD10-#1,000とする。

符 号	F B 1		F B 2			F B 3	F B 4
位 置	両端	中央	X2, X7端	中央	X3, X6端	全断面	全断面
断 面							
B × D	350 × 800		350 × 800			350 × 700	300 × 1200
上端筋	5-D19	3-D19	5-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19
STP筋	□-D13#200		□-D13#200			□-D13#200	□-D13#200
腹 筋	2-D10		2-D10			2-D10	6-D10

RC柱型 リスト S=1:30

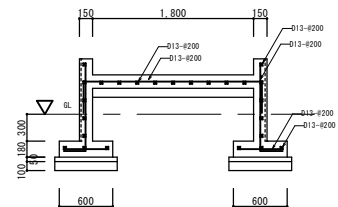
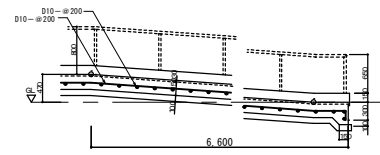
符 号	C 1及びC 1 (ブレース部) C 1	C 2	P 1		
B × D	600 × 1,000	550 × 550	500 × 500		
断 面					
主 筋	16 - D22	12 - D19	8 - D19		
帯 筋	□D13 - #100	□D10 - #100	□D10 - #100		

床版リスト

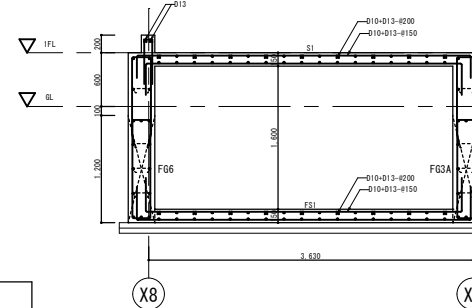
符 号	床 厚	位 置	短辺方向		長辺方向	
			端 部	中 央	端 部	中 央
S1	150	上 筋	D10-D13-#150	D10-D13-#200	D10-D13-#200	D10-D13-#200
		下 筋	D10-#150	D10-#200	D10-#200	D10-#200
S2	150	上 筋	D10-D13-#200	D10-D13-#200	D10-D13-#200	D10-D13-#200
		下 筋	D10-#200	D10-#200	D10-#200	D10-#200
FS1	150	上 筋	D10-D13-#150	D10-D13-#200	D10-D13-#200	D10-D13-#200
		下 筋	D10-#150	D10-#200	D10-#200	D10-#200
土間スラブ	150	シングル 配 筋	D10-D13-#200		D10-#200	
犬走り	150	シングル 配 筋	D10-#200		D10-#200	

壁リスト S=1:30

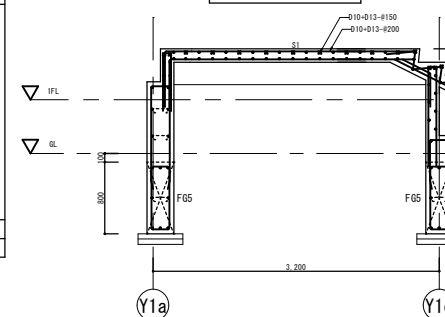
符 号	W15
壁 厚	150
断 面	
縦 筋	D10-#200 ダブル 平角
横 筋	D10-#200 ダブル 平角
縦 筋	1-D13
横 筋	1-D13
斜め筋	1-D13



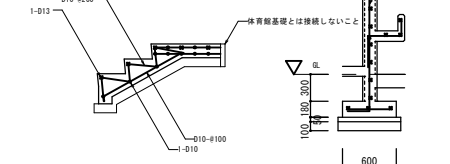
スロープ配筋詳細図 S=1:30



A-A'断面図 S=1:30

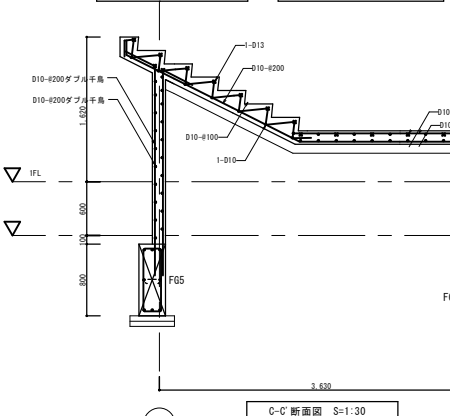


B-B'断面図 S=1:30

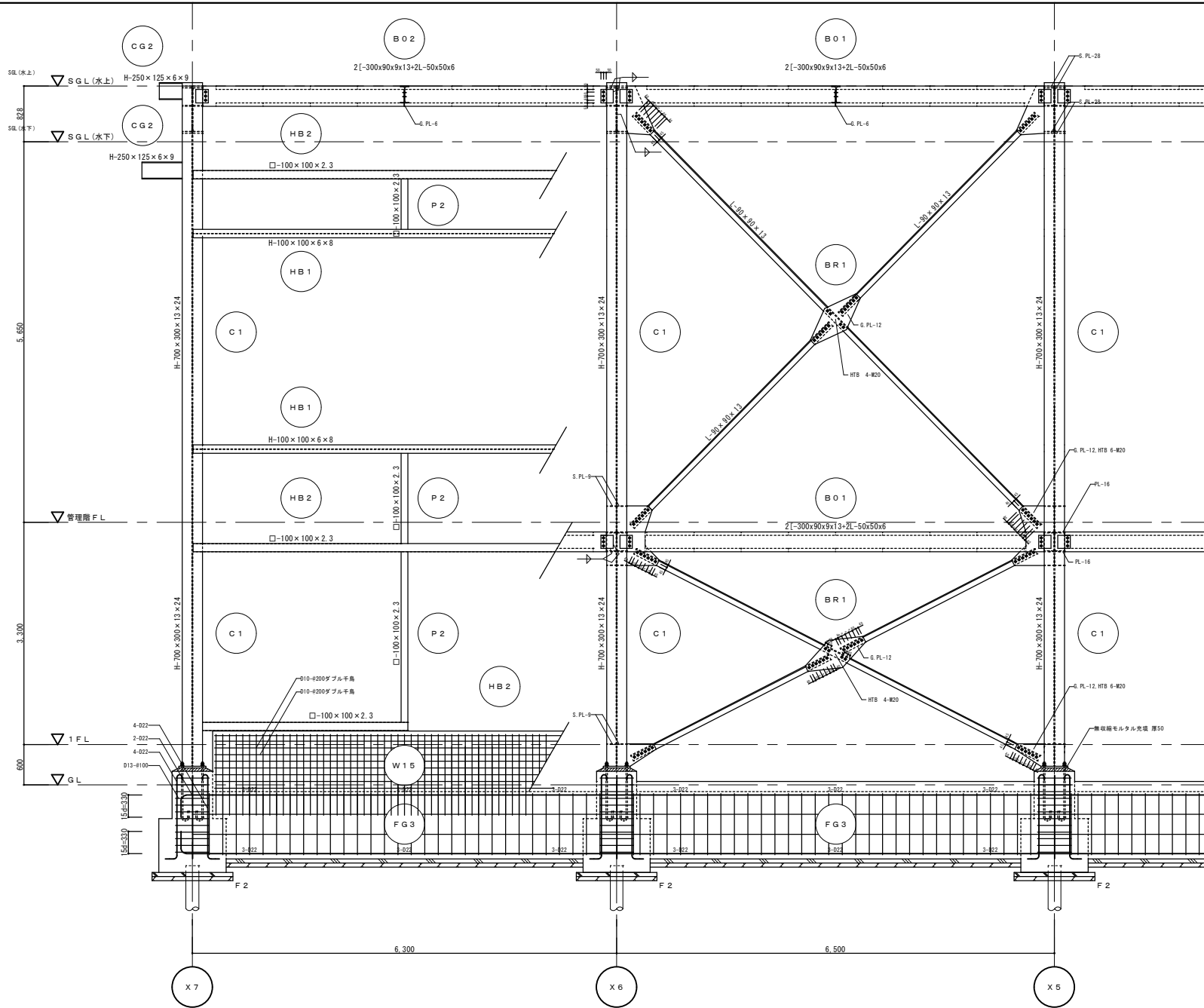


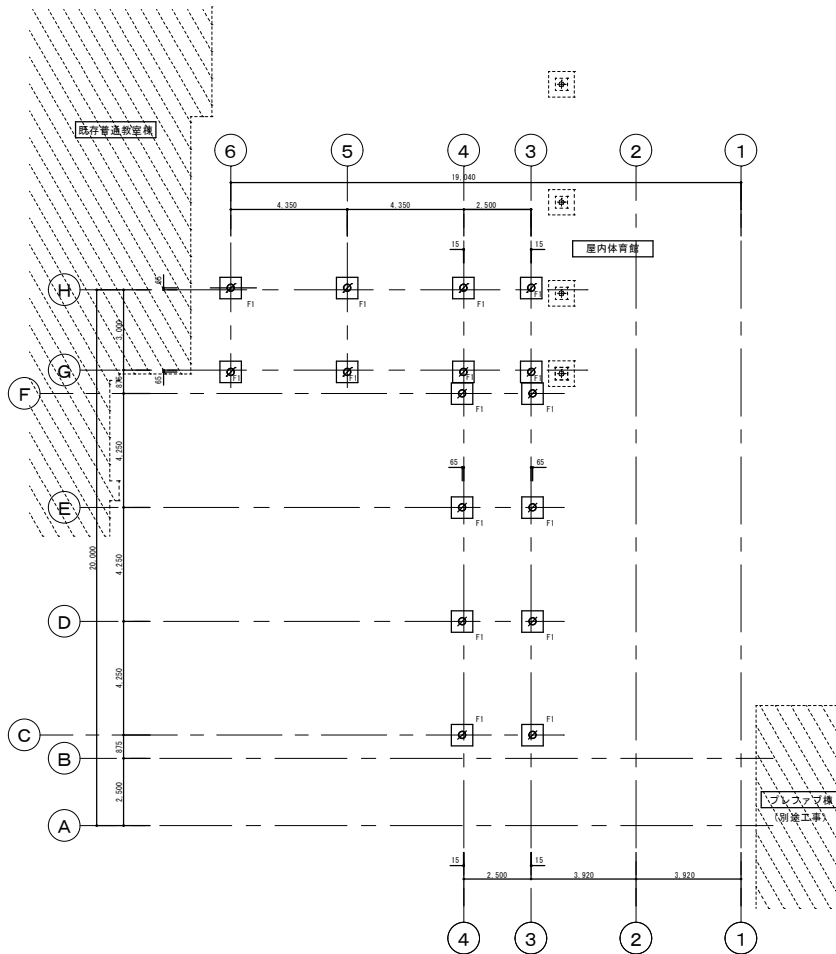
外階段配筋詳細図 S=1:30

水飲み、流し配筋詳細図 S=1:30

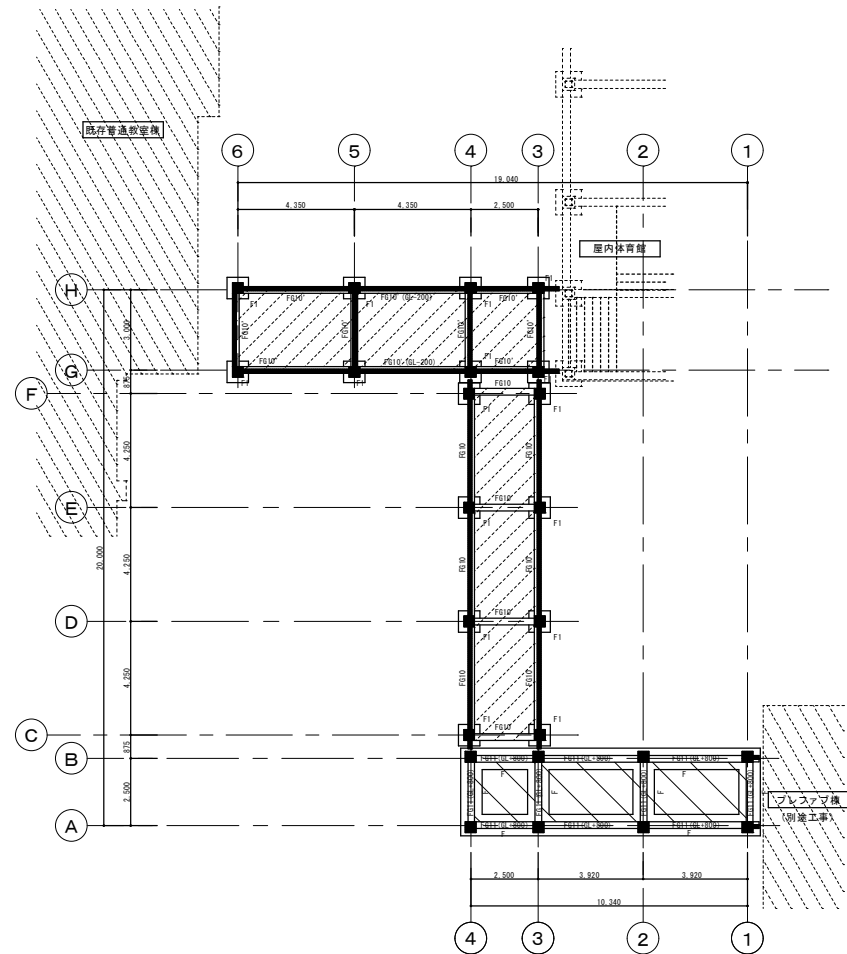


C-C'断面図 S=1:30





杭伏図 S=1:100

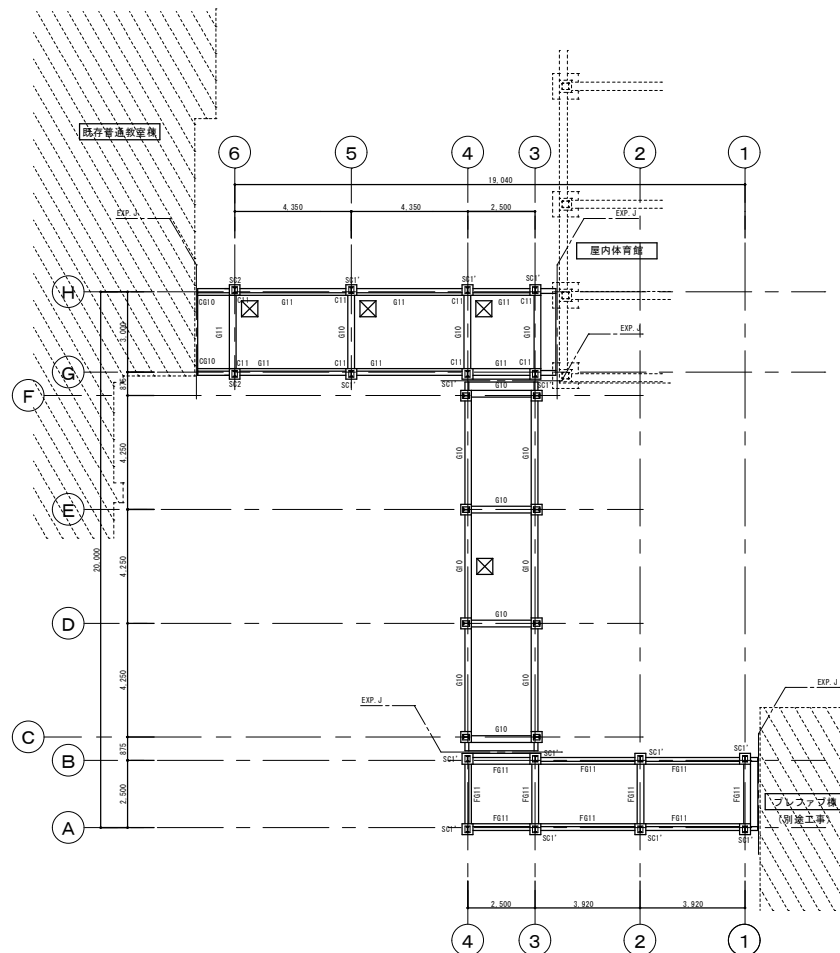


基礎伏図 S=1:100

共通
特記なき限り：RC柱はC10
：壁はW15
：基礎梁天端レベルはGL-100
：基礎下端レベルはGL-900
：F基礎下端レベルはGL-1,000

凡例
：土間コンクリート GL-550天端
：埋め戻し

杭、基礎リスト							
符号	杭径	鋼管厚	鋼管材質	本数	節点数	計	杭長 (m)
F1	Ø	190.7	7.0	STK490	1	16	267以上
杭工法		先端羽根付き鋼管杭工法。継手はメーカー使用による。 高止まりを生じさせないこと。 試験杭は杭径毎に行い、支持層の確認を行うこと。(試験位置は監理者と協議を行う)					

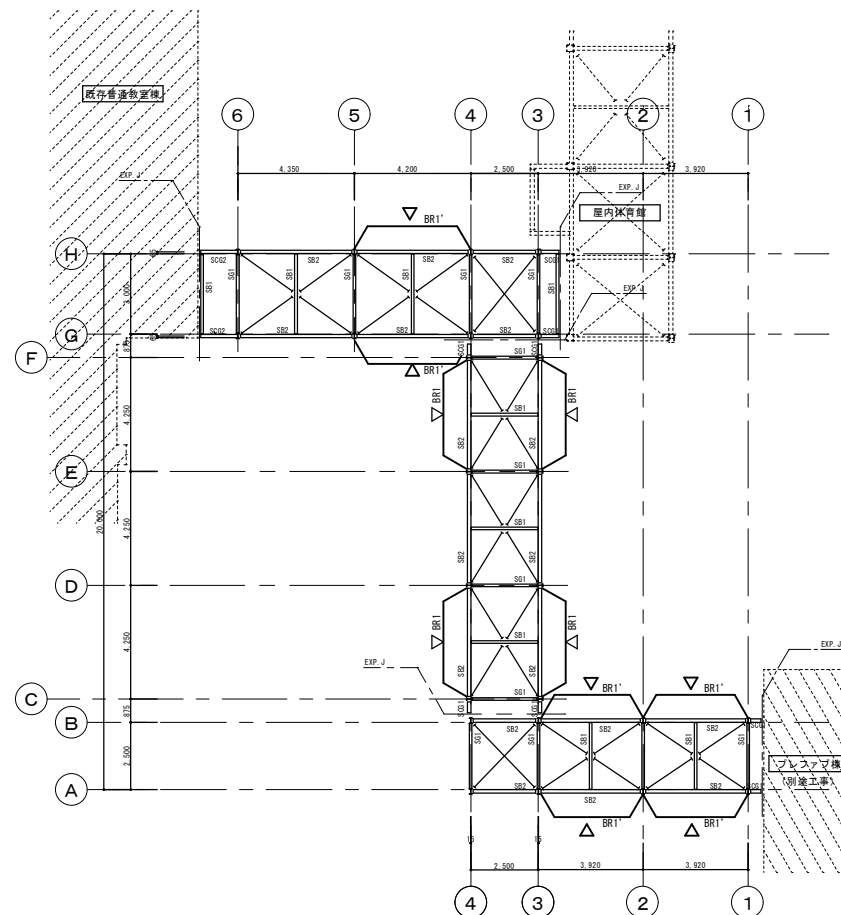


共通
特記なき限り：RC柱はG10
：S柱はSC1
：壁はW15
：床スラブはS1
：SC1ベースプレート下端レベルはスラブ天端+150
：軸ブレース、柱、桁梁は外部露出となるため、溶融亜鉛メッキ加工とし、接合ボルトは、F8T（認定メーカー）を使用すること。

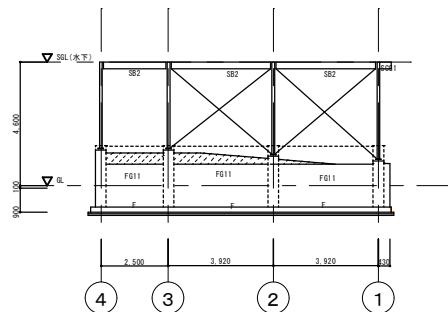
凡例
☒：床下点検口 600×600（4箇所）



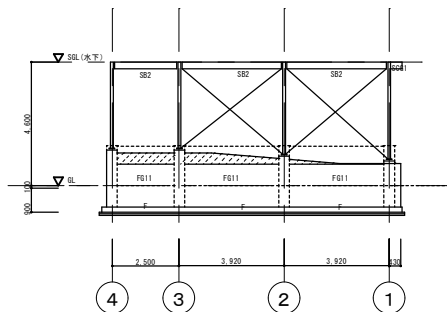
RC梁伏図 S=1:100



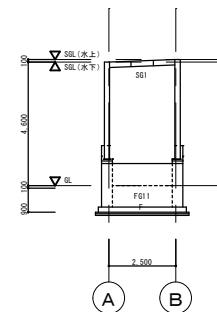
S梁伏図 S=1:100



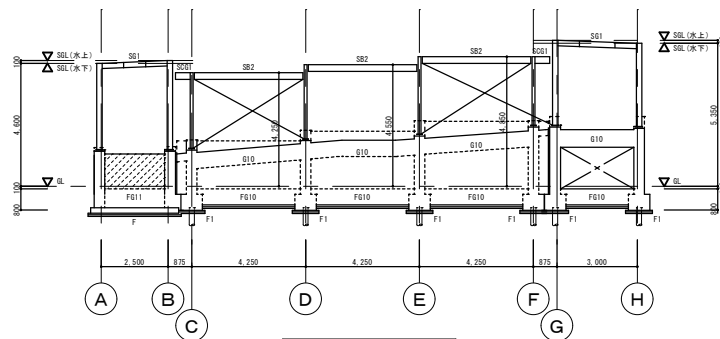
A通り 軸組図 S=1:100



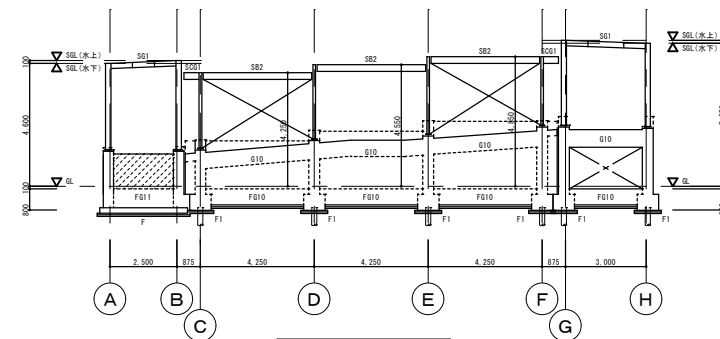
B通り 軸組図 S=1:100



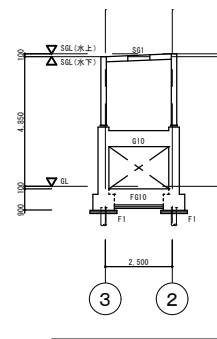
1通り 軸組図 S=1:100



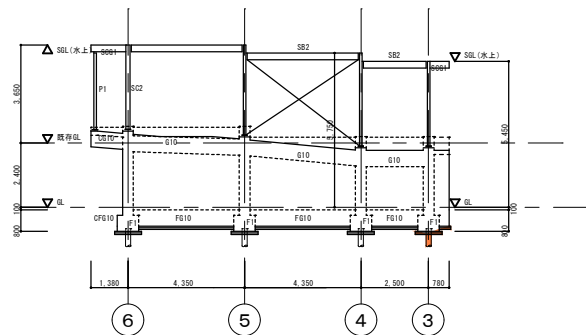
2通り 軸組図 S=1:100



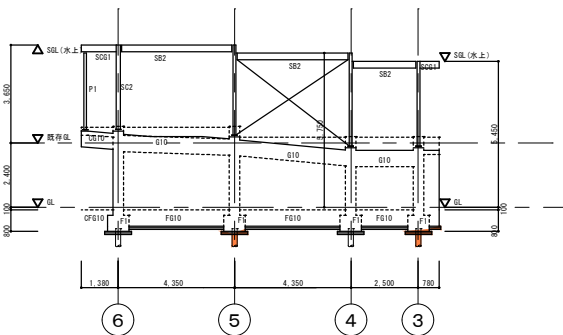
3通り 軸組図 S=1:100



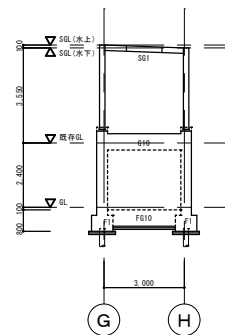
F通り 軸組図 S=1:100



G通り 軸組図 S=1:100

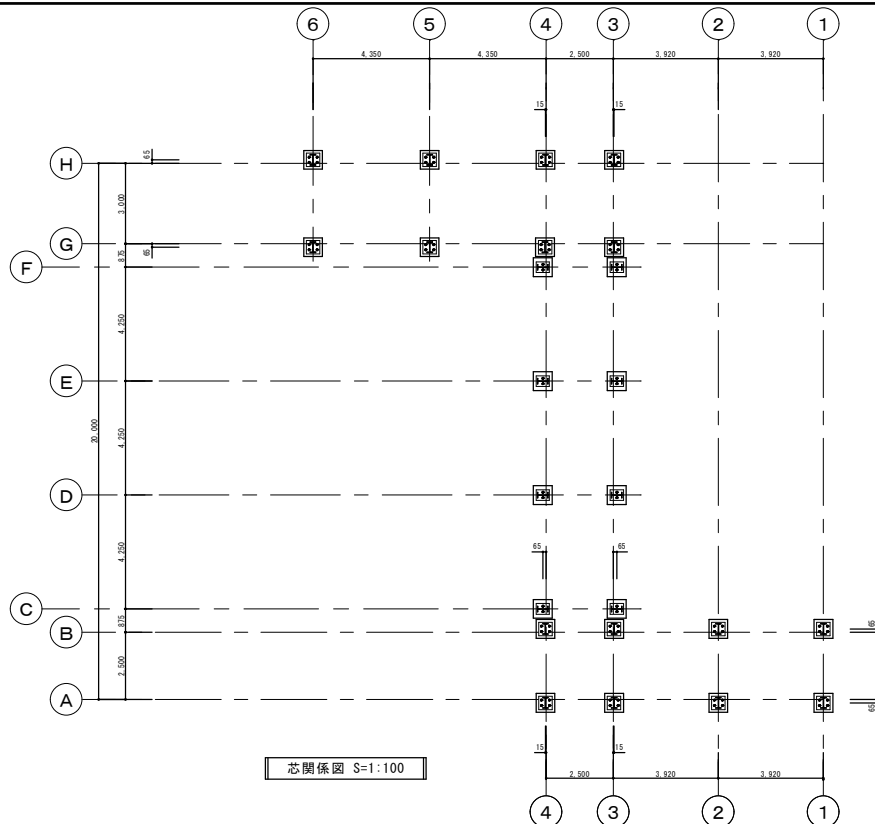


H通り 軸組図 S=1:100



6通り 軸組図 S=1:100

共通
特記なき限り：壁はW15
：横間縁 C-75×45×15×2.3@600
：軸ブレース、柱、桁梁は外部露出となるため、溶融亜鉛メッキ加工とし、接合ボルトは、F&T（認定メーカー）を使用すること。
凡例
：梁上端フカシを示す



RC梁リスト S=1:20

共通事項：基礎梁下 均しコンクリート 700 砕石 700
：市止め筋はD10-@1,000とする。

符 号	FG10'、CFG1 (2A)	G10'、CG10 G11 (2A)	FG11 (2C)
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
	250×600	250×600	250×1,800
上端筋	2-D22	2-D22	4-D16
下端筋	2-D22	2-D22	4-D16
STP筋	□-D13#200	□-D13#200	□-D13#200
腹 筋	2-D10	2-D10	8-D10

FG10 (2B)	G10 (2B)
全断面	全断面
断 面	
	250×600
上端筋	2-D19
下端筋	2-D19
STP筋	□-D13#200
腹 筋	2-D10

RC柱リスト S=1:20

符 号	C10	C11 (2A)
位 置	柱脚	柱脚・柱頭
断 面		
	400×400	400×400
主筋	8-D19	8-D22
HOOP	□-D10#100	□-D10#100
備考		

壁リスト S=1:20

符 号	W15
壁 厚	150
断 面	
縦 筋	D10-#200 ダブル千鳥
横 筋	D10-#200 ダブル千鳥

鉄骨部材リスト S=1:20

共通事項：外部露出面は溶融亜鉛メッキ加工とし、接合部はFRT(認定メーカー)を使用すること。

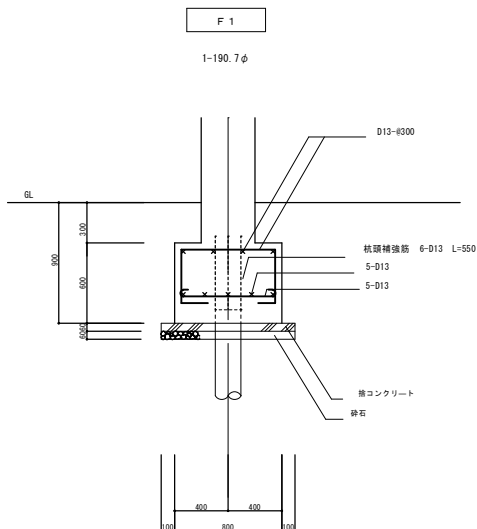
符号	SC1'	SC2	SG1	SB1	SB2	SCG1・SCG2	SC1 (2B)
主材	H-200x100x5.5x8	H-194x150x6x9	H-200x100x5.5x8	H-250x125x6x9	H-250x125x6x9	H-250x125x6x9	H-200x100x5.5x8
形状							
備考	B. PL-28x250x250 2 A: (SM490C) 2 C: (SS400) A. Bolt 4-M20 L=600mm (※ナット付き、l b=450以上) 2 A: (ABR490) 2 C: (ABR400)		FLN. 2PL-12 4x4-M16 WEB. 2PL-6 2x2-M16	G. PL-6 PL-200x85 3-M16	G. PL-6 PL-200x85 3-M16	S. PL-16	B. PL-12x250x200 A. Bolt 2-M16 L=600
符号	Br1' (2A・2C)	Br2	鋼 縁	P1			Br1 (2B)
主材	M20	M16	C-75x45x15x2.3	□-100x100x2.3			M16
形状							
	ターナバックル種付け G. PL-9 H. T. B 1-M20	ターナバックル種付け G. PL-9 H. T. B 1-M16					ターナバックル種付け G. PL-6 H. T. B 1-M16
備考	壁ブレース	水平ブレース					壁ブレース

※ l b: ベースプレートから定着板までの距離

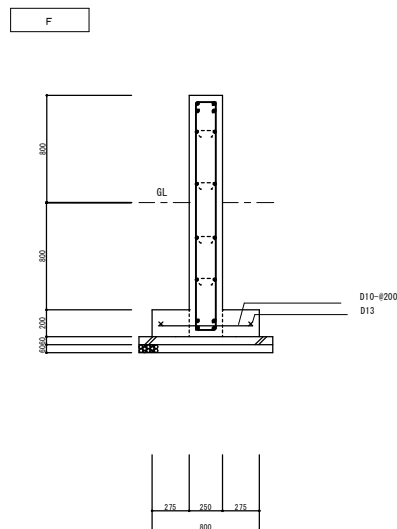
床版リスト

符 号	床 厚	位 置	短辺方向		長辺方向	
			端 部	中 央	端 部	中 央
S1	150	上 筋	D10-D13-#150		D10-D13-#200	
		下 筋	D10-#150		D10-#200	
土間スラブ	150	シングル配筋	D10-D13-#200		D10-#200	

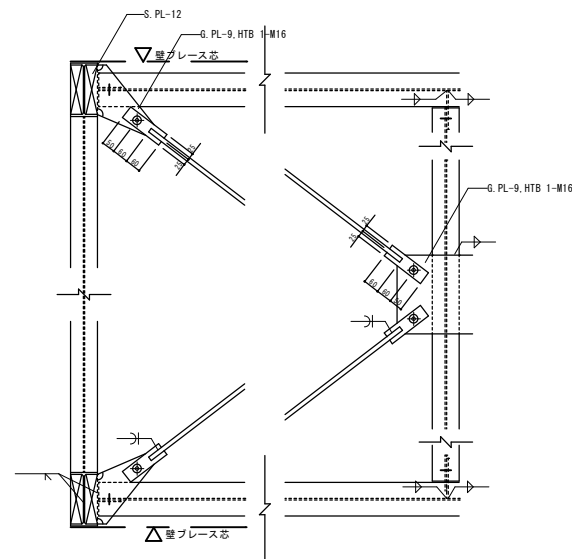
渡り廊下 2 a 様基礎



渡り廊下 2 c 様基礎

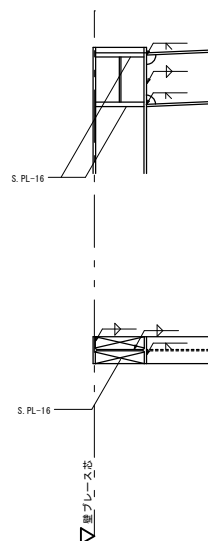


屋根ブレース接合部 S=1:10

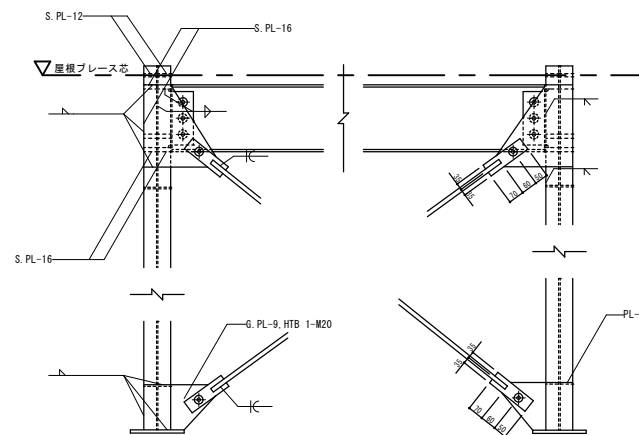


※ 特記なき柱内スチフナーはつき合わせ溶接とする。

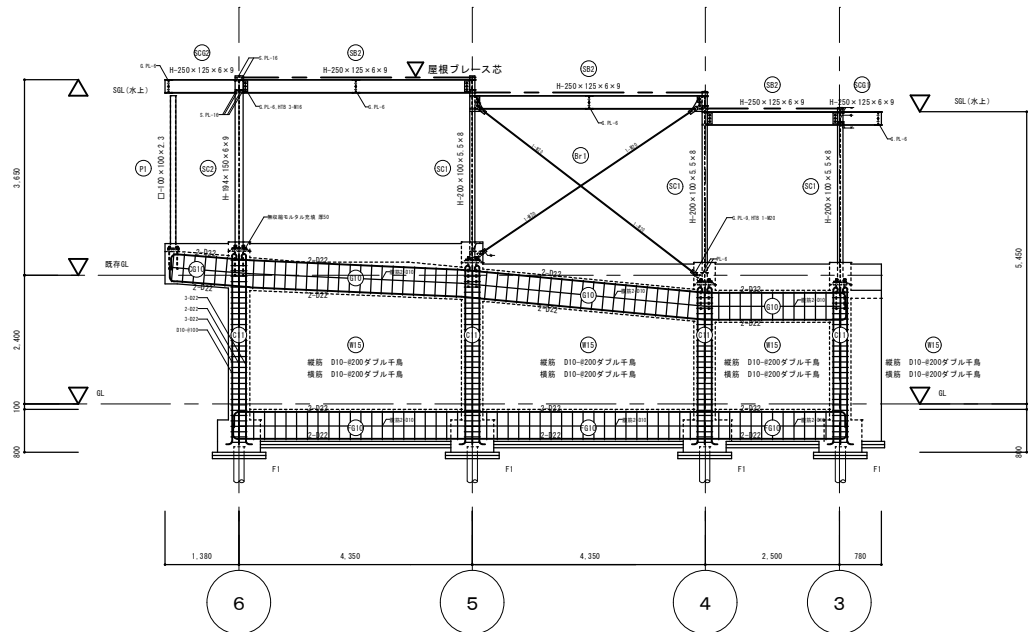
柱・梁接合部 S=1:10



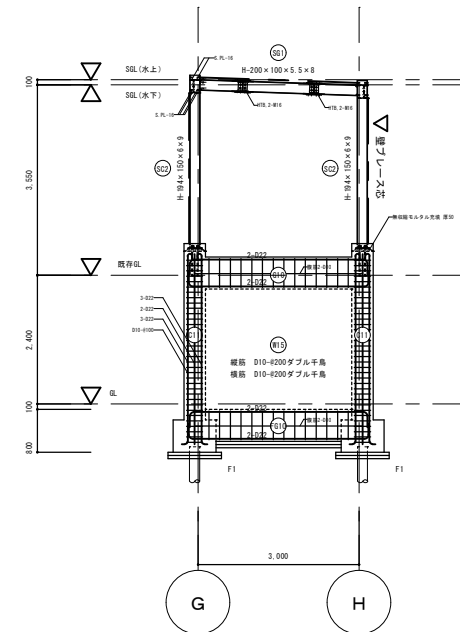
壁ブレース接合部 S=1:10



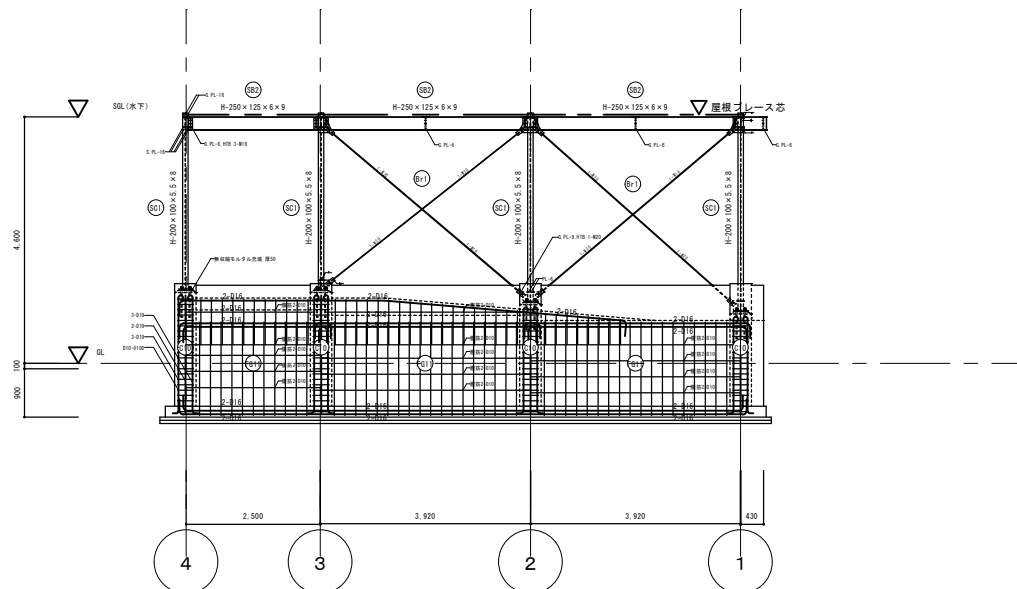
※ 特記なき柱内スチフナーはつき合わせ溶接とする。



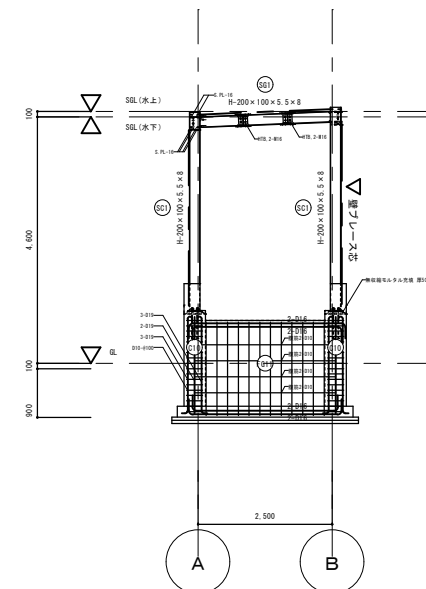
G通りラーメン詳細図 S=1:50



6通りラーメン詳細図 S=1:50



A通りラーメン詳細図 S=1:50



1通りラーメン詳細図 S=1:50